

【ご参考資料】

2015年2月18日

2月17日発表のインドネシアの政策金利の引き下げについて

市場予想に反し、政策金利を0.25%引き下げ

2015年2月17日、インドネシア中央銀行は金融政策決定会合を開き、政策金利を0.25%引き下げ、年率7.50%とすることを決定しました。利下げは2012年2月以来、約3年ぶりとなります。

昨年11月の臨時会合で、政府の補助金削減による燃料値上げに対応するため、利上げを実施していたことや、経常収支の持続的な改善が見られるまでは金融引締めを続けると表明していたことなどから、市場では大半が金利据え置きを予想していました。

各国の中央銀行が金融緩和に動く中、今回の利下げは、インフレ率の鎮静化などを背景に、経済回復を後押しするための措置と考えられます。

インフレ率や経常収支などマクロ指標の改善が背景

同中銀は声明の中で、今回の利下げは、インフレ率を3～5%の目標の下限に近づけることや、経常赤字をより維持可能な水準まで縮小させることと整合的であると説明しています。

原油安などを背景に、1月のインフレ率は6.96%と昨年12月の8.36%から大きく低下しました。さらに、昨年10-12月期の経常収支は、前四半期から赤字幅が縮小しました。

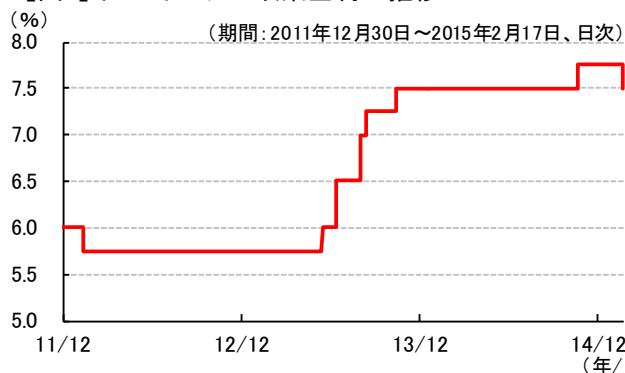
また、同中銀は、政府の燃料補助金改革や、インフラ開発の促進などの経済政策を歓迎し、インフレ抑制や経常赤字縮小のために、政府と協力を強めていくとしています。

2月17日のニューヨーク外国為替市場では、対米ドルで前日比0.3%程度のインドネシアルピア安、対円で同0.3%程度のインドネシアルピア高となっています。

次回の金融政策決定会合は2015年3月17日の予定です。

以上

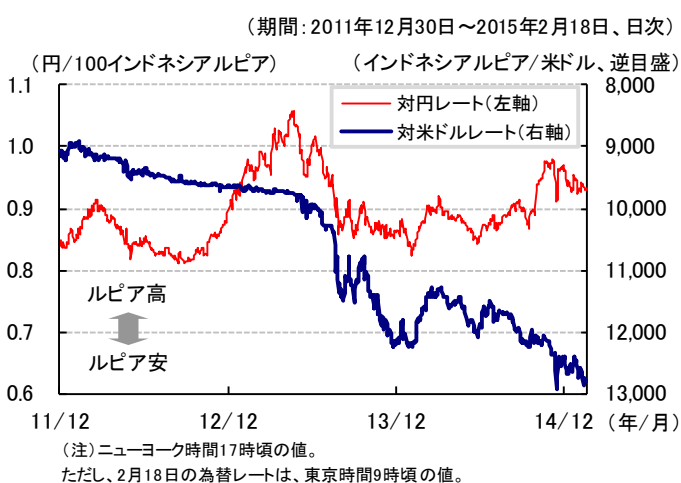
【図1】インドネシアの政策金利の推移



【図2】インドネシアの消費者物価指数(前年同月比)の推移



【図3】インドネシアルピアの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成